

# アジェンダ21すいた

第49号

平成31年1月25日発行

「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味です。「アジェンダ21すいた」は、市民・事業者・行政が力を合わせて、持続可能な社会の実現を目指すパートナーシップ組織です。

## ニュースレター

### CONTENTS

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| ●アジェンダ2019年元旦のことば・・・・・・・・・・1 | ●仲間と学ぶ体験講座・・・・・・・・・・5   |
| ●食品ロスの啓発キャンペーン・・・・・・・・・・2    | ●一国の主ゲーム・・・・・・・・・・6     |
| ●エコキャンドル作り講座・・・・・・・・・・3      | ●市の施策・・・・・・・・・・7        |
| ●地域資源循環型・炭火力発電システム・・・・・・・・4  | ●各種募集・イベント案内・・・・・・・・・・8 |

## 「アジェンダ21すいた」2019年元旦のことば

あけましておめでとうございます。旧年中は多くの皆さまにお支え頂き、無事、活動ができました。心より感謝申し上げます。

さて、何度か書かせて頂きましたが、昨年、北摂7市3町で食品スーパーと「北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結し、6月からレジ袋の無料配布を中止しました。

「アジェンダ21すいた」の創立時から三者協働で取り組んできた吹田の取り組みの成果が北摂に広がり結実したと言えるでしょう。

市行政は市民組織や市民の協力を受けてこそ施策を進めることができ、環境貢献したいスーパーはリードする市民組織の応援がなければ動くことができず、また市民組織は事業者や行政とともに環境に優しい吹田を実現できる。三者が協働してこそ、実現できたと言えるでしょう。



会員の皆さま ～市役所本庁舎正面玄関 門松の前にて～

とはいえ、地球温暖化問題や食品ロス問題、マイクロプラスチック問題など、取り組むべき課題は山積しています。「アジェンダ21すいた」はエネルギー部会、資源部会、自然部会の地道で力強い取り組みを基盤として、市内の事業者や大学、市民組織、そして若者と協働で、温暖化や食ロスのフラッグシッププロジェクトを市内に広げております。

これらを通じて市内の皆さまが自らのライフスタイルを見直し「もったのしい」（もったいない×楽しい）の精神を発揮して、全国に誇れる持続可能な環境都市に近づけるよう、さらに取り組んで参ります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

(アジェンダ21すいた 代表 三輪信哉)

## 食品ロスの啓発キャンペーン(フラッグシッププロジェクト)

膨大な量の食品が捨てられています。農林水産省の調べで平成28年には、日本国内では632万トン、このうち事業系は約330万トン、家庭系は約302万トンも捨てられているのです。これは皆、食べられるのに捨てられている「食品ロス」と言われるものです。

一方で、世界中で食べるものに困っている人がいて、世界全体での年間食料援助量は約320万トンもあり、日本国内の食品ロスを黙って見過ごしているわけではありません。

なぜこんなに食品ロスが発生するかというと、「ダイエットしているから残そう。」、「たくさん頼んで残ってしまった。」、「注文したら思ったより量が多かった。」などの要因が考えられます。

この現実を何とかしなければと、「アジェンダ21すいた」の食品ロスプロジェクトは吹田市と協働で「すいた食べきり運動」キャンペーンを始めました。

平成30年11月からJR吹田駅周辺と大阪メトロ江坂駅周辺のお店にプロジェクトメンバーが出向き、「すいた食べきり運動」に協力を求めた結果、59店舗の賛同が得られました。賛同していただいたお店には、ポスターやステッカーなどが貼ってあったり、卓上シートや幹事用マニュアルを置いていただいています。このキャンペーンのキャラクターは「ペロリンコ」といいます。「おいしく全部ペロリンコ!」と呼び掛けています。

すいた食べきり運動推進協力店における啓発キャンペーンの様子



吹田市役所本庁舎 食堂



東急ハンズ江坂店 入口(江坂)



サニーストーンホテル・フロント



関西大学 生協食堂、不二家食堂さまにもご協力いただきました



サニーストーンホテル・掲示板



このうちの「幹事さんマニュアル」を紹介しましょう。  
 以下のような「宴会5か条」を定め、食べ残しが出ないような宴会運営を奨励しています。

- その1) 幹事さんから食べきりの声かけ
- その2) よく考えて適量注文
- その3) 箸、皿持って席移動
- その4) 食べきれない時はおすそ分け
- その5) 開始15分、終了15分は食べきりタイム

大事な点は、「食べきれぬ量を最初に考えて注文する」、「食べきれない時は仲間でシェアする」、「お店によっては持ち帰りができる場合があるので、お店の人に聞いてみましょう。」ということです。

食品ロスの問題は、他人事ではないのです。一人一人が「ごはん一粒でも残したらダメ」と言われたことを思い出し、世界で「飢え」に苦しんでいる人たちがいる現実を思い、「もったいない」の心呼び起こして行くことが必要だと思い、私たちの活動を続けていきます。

(フラッグシッププロジェクト 水川晶子)



幹事さんマニュアル (外面)



幹事さんマニュアル (内面)

## エコキャンドル作り講座(エネルギー部会)

アジェンダ21すいたの事業が地域に浸透していないことを解消したく、千里新田地区青少年対策委員会とのコラボにより、エコキャンドル作り講座を実施しました。

当日は、インフルエンザの影響で事前申込の人数者より減少してしまいましたが、小学生児童20名と保護者10名の参加をいただき、楽しく事業を行うことができました。低学年の児童が多かったのですが、見事な絵付けがなされた世界に一つしかないキャンドルが出来上がりました。

後に行った環境学習にも積極的に参加・協力していただき、有効な時間を共有することができました。青少年対策委員会の役員の皆様、ありがとうございました！

(エネルギー部会 吉田誠)



子どもたちがイラストを描きました



廃油のリサイクルについて学びます



助成金で実施しています

## 地域資源循環型・炭火力発電システムを学び、見学して (NPO法人すいた市民環境会議)

2018年10月27日にNPO法人すいた市民環境会議で、高槻バイオマス粉炭研究所の島田所長の講演と現地見学会をおこないました。

炭の現状と効用、素材について学びました。効用は大きく3項目に分かれます。

- 1) 燃料：ボイラー、ストーブ、飲食店燃料、災害用備蓄燃料
- 2) 脱臭・浄化・整腸作用：鶏、豚の整腸剤（炭を与えた動物の糞は臭が少ない）
- 3) 土地改良：酸性雨で酸性に傾いた土壌を中和にむける

素材はこんなものまで炭になるの？とってしまいますが、多くのものが対象です。

- 1) 選定木材(街路・公園・果樹園・荒廃林など)
- 2) ゴルフ場で刈った芝
- 3) 食品・農業残渣(野菜の枝葉・もみ殻・コーヒー豆残渣・お茶の葉などなど)

特に、コーヒー豆、もみ殻などはできた炭がすでに粉の状態なので、そのまま農地を中性化してくれますし、昨年夏の豪雨被害にあった家屋の除湿も担っているといえます。何よりも、都市の中で出る剪定枝など、今はゴミとして燃やしているだけのものが炭になると商品となり販売できるのです。

見学をした高槻バイオマス粉炭研究所の製炭炉は従来の窯とは違い、小さなプールのような開放型のものです。さらに、製炭の過程で出る熱エネルギーを利用して発電するシステムを実証実験の最中で、「地域資源循環型・炭火力発電システム」と称しています。このシステムは2017年度にクラウドファンディングで資金を集めて実施されています。

このような地域資源循環型の炭火力発電システムが吹田でもできないものかと思案中です。

(NPO法人すいた市民環境会議 小田信子)

高槻バイオマス粉炭研究所（公式ホームページより引用）

<アクセス>

〒569-1022 高槻市日吉台五番町9-19

tel 072-698-1532 fax 072-698-1533

<設立趣旨>

- バイオマス粉炭の社会的な認知を高め、様々な可能性に対する信頼を得る。
- 地球環境保全に貢献できるバイオマス粉炭の有効性を実証する。
- バイオマス粉炭を地元へ供給するだけでなく、新しい活用方法を開発する。



燃料となるもの



現地見学会の様子



## 自前講座「仲間と学ぶ体験講座」を展開(NPO法人すいた環境学習協会)

長年に亘る生涯学習支援事業の経験、日頃の切磋琢磨した豊かな体験と知識を活かそう、との意識の高まりをもとにNPO法人すいた環境学習協会（SELF）は、自前講座「仲間と学ぶ体験講座」を立ち上げ、実施しました。

講座のキャッチフレーズは「楽しく学んで、仲間づくり！」。講座の目的は、①地域で、共に学び、教え合う仲間づくり、②お互いに認め合える仲間と生き甲斐づくり、③仲間と目標ある活動を通じた健康増進、④地域の環境問題を一緒に考え、行動する仲間づくり、を掲げ受講生を募集しました。立ち上げが急で周知が遅れたため、応募者が集まるか心配でありましたが期待以上の合計24名の応募がありました。

講座内容は、活動組織の組・クラブ等が、日頃から実践していること、切磋琢磨していることをベースにこの講座の為に練り上げたもので進めました。

第1回 大阪学院大学教授の基調講演とSELF紹介

第2回 地球温暖化と私たちの生活

第3回 食で防災

第4回 身近な自然をやさしく学ぶ

第5回 循環型社会を目指して

第6回 都市に残された自然

第7回 甦るびわ湖

第8回 まちなか環境チェック

8回の講座、其々に多くの参加があり、初めての試みとしては、成功したのではないかと、自画自賛しています。振り返りシートでも、講義内容が良く理解できた、有意義であった、見学・体験でも興味深く観察した、初めての体験で緊張したが楽しかった等、新たな発見と共に新たな仲間ができて楽しい講座であった、との受講生からの感想が多くありました。

終了段階で、SELFへの入会を勧誘しましたところ、12月1日現在、6名から、入会申込書を頂きました。次年度の自前講座の継続を理事会に諮ったところ、継続すべしとの意見多数で承認を得ました。更に、切磋琢磨し、充実した講座をめざし、早めに検討を始め、十分な周知期間をもって臨もうということにしています。



第4回 公園での樹木観察



第5回 講座風景



第6回 里山保全体験

(NPO法人すいた環境学習協会)

## 一国の主ゲーム(大阪大学環境サークルGECS)

平成30年12月9日(日)、くるくるプラザにて大阪大学環境サークルGECS主催のイベント「一国の主ゲーム～君は何を守れるのか～」が開催されました。イベントには大勢の子供たちが訪れ、皆ゲームに真剣に取り組んでいました。

一国の主ゲームは、2015年に国連サミットで決定した「持続可能な開発目標(=SDGs)」を一般の方々に知ってもらうことを目的としたゲームです。それぞれのチームが一つの国を持ち、SDGsの17の項目に沿ったミッションをクリアしていくことでビンゴカードをできるだけたくさん埋めていきます。ゲームの途中で起こる災害やハプニングに対処し、他の国と協力して食糧を得ることが必要になるため、子供たちはゲームを通してSDGsを直感的に理解しその達成に必要な心がけを身につけることができたのではないかと思います。



参加した子どもたちとGECS 記念撮影



ゲームを通してSDGsを理解します



GECSによるSDGsの授業

ゲームの後には簡単なSDGsの授業を開き、ゲーム内で行った行動がSDGsのどれに当てはまるかなどの確認をし、それぞれの項目の意味を説明しました。授業の最後に、それぞれの国でSDGsに関連した項目を一つ選んでその達成のために自らができることを考えてもらい、全員が発表しあうことでそれぞれの環境への意識が高めて日常生活へつなげていけるようなイベントとなりました。

終了後に行ったアンケートでは、多くの参加者たちにゲームの内容に満足だったと答えていただいたので、今回のイベントではSDGsの認知度の向上に関して十分意味のあるものであったのではないかと思います。また、子供達のSDGs理解度の点でも52.3%から72.6%に上昇しました。

大阪大学公認の環境サークルGECSでは、今回のようなイベントをはじめ、学祭でのフリーマーケット、周辺のゴミ拾い、夏季の壁面緑化や地域の児童を対象とした環境教育など、環境問題の改善や一般の方々の環境への意識の向上を目的とした活動を日常的に行っています。地球温暖化をはじめとする環境問題を解決していくには多くの人々の意識的な行動が必要です。私たちの働きかけによって少しでも多くの方々にその意識を高めていただければ、これからもこうした活動を続けていきたいです。

(大阪大学環境サークルGECS 代表 奥野晃司)



SDGsについて学ぶ子どもたち



# 市の施策について(吹田市 環境部 環境政策室)

## ■吹田市の取組が「グリーン購入大賞」で大賞を受賞しました！

### ＜受賞の概要＞

環境に配慮した製品やサービスを環境負荷低減に努める事業者から優先的に購入する「グリーン購入」の普及・拡大に取り組む団体を表彰する制度である「第19回グリーン購入大賞」（グリーン購入ネットワーク主催）で、吹田市が取り組んでいる環境配慮型の電力調達、行政・民間団体部門において、大賞を受賞しました。

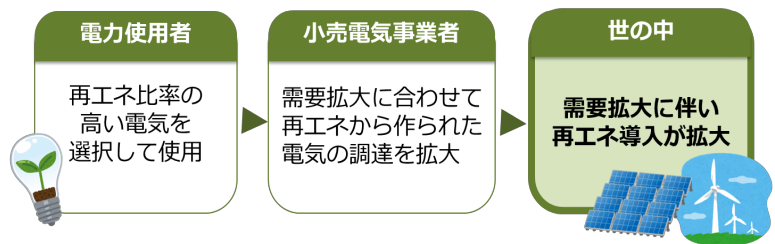


「第19回グリーン購入大賞」表彰式にて

### ＜吹田市の電力調達＞

吹田市では、再生可能エネルギーの導入拡大の創出（右図参照）を目的とした「吹田市電力の調達に係る環境配慮方針」を平成29年に策定し、公共施設における電力調達契約の競争入札の際に、再生可能エネルギー比率の高い電気の供給を主な入札参加条件とした、環境配慮型の電力調達を行っています。今後は、RE100（再生可能エネルギー100%の電力調達）を見据えつつ、低炭素社会への転換に向けて取り組んでいきます。

### 再生可能エネルギー導入拡大の創出



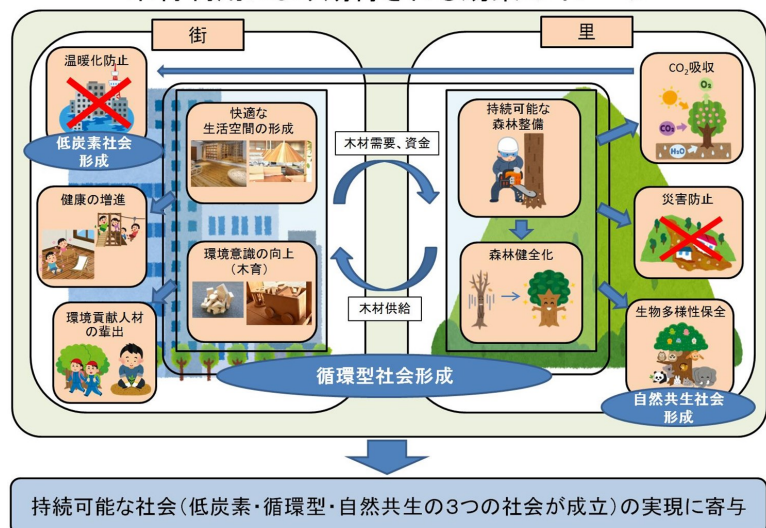
## ■吹田市木材利用基本方針を策定しました！

フレンドシップ協定を締結している能勢町（大阪府）との街と里の連携による持続可能な社会づくりに向けた取組の一環として、昨年12月、「吹田市木材利用基本方針」を策定しました。この方針では、本市公共施設において、フレンドシップ協定を締結している能勢町産材をはじめとした府内産材を中心に国産材の利用に努めることとしています。

ではなぜ、木材利用なのでしょうか？能勢町では、1年あたり、全体の1%未満の面積しか森林整備がされていません。木材を利用することで、森林に人の手が入り、森林の健全化につながります。森林健全化により、CO<sub>2</sub>吸収量増加による地球温暖化防止や災害防止等の街と里の双方にとってのメリットを享受することができます。更に、木材を供給することにより、収入が得られるため、継続的に森林に人の手が入り続け、持続可能なものとなります。

本方針は、その第一歩の取組です。今後も持続可能な社会づくりに向け、能勢町産材等の利用に取り組みます。

### 木材利用により期待される効果のイメージ



# 各種募集・イベント案内

## 第17回くるくるフォーラム

私たちは子どもたちに環境問題をどう伝えることができるのでしょうか。子どもたちが輝く環境学習を行います。ぜひ、お子様と一緒にご参加ください。

- ◆とき／平成31年3月9日（土）14時00分から16時30分
- ◆ところ／千里山コミュニティセンター
- ◆講師／浅利美鈴（京都大学地球環境学堂 准教授）
- ◆主催／（公財）千里リサイクルプラザ・吹田市
- ◆問合せ／（公財）千里リサイクルプラザ（TEL：06-6377-5300）へ。



## 環境ゲーム『はらっぱビンゴ』

市内大学生や環境団体の人たちとグループで、はらっぱを舞台にビンゴゲームをしませんか。

- ◆とき／平成30年3月23日（土）10時00分から15時00分
- ◆ところ／千里北公園、わくわくの郷（現地集合）
- ◆対象／小学1年～小学4年生◆定員／先着30名（保護者は含まない）
- ◆申込み／大阪大学環境サークルGECsホームページ（<http://gecs.main.jp/>）
- ◆主催／すいた環境学生ネットワーク 共催：アジェンダ21すいた、吹田市
- ◆問合せ／吹田市環境政策室（TEL: 06-6384-1782）へ。

## 第15期SELF 通常総会のご案内

総会のほかに、講演会や懇親会も開催します。講演会には、世界一周自転車旅行家の中西大輔氏（植村直己冒険賞受賞）をお招きし、「夢への挑戦—自転車旅行で見た世界」についてお話していただきます。

- ◆とき／平成31年5月30日（木）午後2時00分から午後8時00分
- ◆スケジュール／午後2時～「総会」、午後3時30分～「講演会」  
午後6時～「懇親会」
- ◆ところ／千里市民センター 大ホール
- ◆問合せ／NPO法人すいた環境学習協会（TEL：06-6876-1075）へ。

ホームページで、イベント情報や活動スケジュールなどをお知らせしています。

イベント情報や活動スケジュールなどの情報を掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。  
ホームページ <http://www.ag21suita.org/>

### アジェンダ21すいた入会のご案内

持続可能な社会をめざして、一緒に活動しましょう！

#### 【会費】

- ◆正会員 個人1,000円／年  
団体5,000円／年
- ◆賛助会員 1口1,000円／年
- ◆準会員 無料

#### 【会員特典】

ニュースレター・各種案内資料の送付  
部会活動への参加、主催行事への参加など

### アジェンダ21すいたニュースレター

第49号（平成30年1月25日発行）

発行：アジェンダ21すいた 事務局

〒564-8550 吹田市泉町1-3-40

吹田市環境部環境政策室内

TEL：06-6384-1782 FAX：06-6368-9900

E-mail：env-seisaku@city.suita.osaka.jp

企画・編集：アジェンダ21すいた『エコセン』